

## 第37期 第2四半期報告書

2012.7.1 →→→ 2012.12.31



### 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。  
当社の第37期第2四半期報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

#### ！医療機器分野の好調により売上、利益とも大幅増

2013年6月期第2四半期の連結業績につきましては、売上高は医療償還価格の下落、欧州通貨安、産業機器分野の減少などの影響があるものの、医療機器分野の自社ブランド製品の末端需要が全地域において大変堅調であることや、主力製品PTCAガイドワイヤーの国内直接販売化に伴う収益改善などにより、前年同期比21.8%増の9,618百万円となりました。

営業利益は営業関係費用の増加により販売費及び一般管理費が増加したものの、好調な売上高に比例し、同27.8%増の2,226百万円となりました。

経常利益は足元の円安傾向に伴う為替差益の増加により、同42.3%増の2,459百万円となりました。また、四半期純利益は同192.7%増の1,784百万円となりました。



代表取締役社長 星野昌彦

#### ！通期業績予想を上方修正、売上高、利益とも過去最高更新へ

通期連結業績予想につきましては、第2四半期連結累計期間までの業績が大変好調に推移したことに伴い、2012年8月10日に公表した業績予想を2013年2月14日に上方修正しております。売上高は期初計画18,691百万円から19,277百万円に、営業利益は同3,554百万円から4,181百万円と、売上高、利益とも過去最高を更新すると予想しております。

第3四半期連結会計期間以降の売上高は、デバイス事業における産業機器分野の取引動向が不透明であることから当初予想を下回る可能性がある一方、メディカル事業においては、第2四半期連結累計期間同様に大変好調に推移し、当初予想を上回る可能性があるため、

## 株主の皆様へ

全体としては当初予想通り好調に推移すると見込んでおります。また、欧州市場における債務危機に派生する医療費抑制や、中国における日中領土問題に派生する輸出への影響などのリスク要因も問われておりますが、足元において、当社グループへの影響はともに少なく、欧州、中国とも順調に推移しております。

また、利益につきましては、販売費及び一般管理費について第2四半期連結累計期間に発生予定であった取引(約130百万円)が月ズレし、第3四半期連結会計期間以降に発生する予定であるため、その内容を織り込んでおります。その他につきましては、たな卸資産の適正性に関する再評価を実行し収益体質改善のための在庫圧縮を積極的に推し進めることなどを予定していること、また為替や株式市場の外部環境の動向が不透明であることなどを複合的に勘案し、据え置きとしております。

### ！成長戦略を強固に進めていくことで、企業価値の拡大を目指します。

当社グループは中期経営計画「Next Stage 2016」を掲げ、2016年6月期に売上高300億円を達成することを目標としております。本計画では、「低侵襲治療\*製品を機軸とし、開発から製造・販売までトータルサポートできるグローバル医療企業へ」をテーマとして、従来の医療機器の「製造」に加えて、「販売」も強化し、収益を拡大していくことを目指しております。

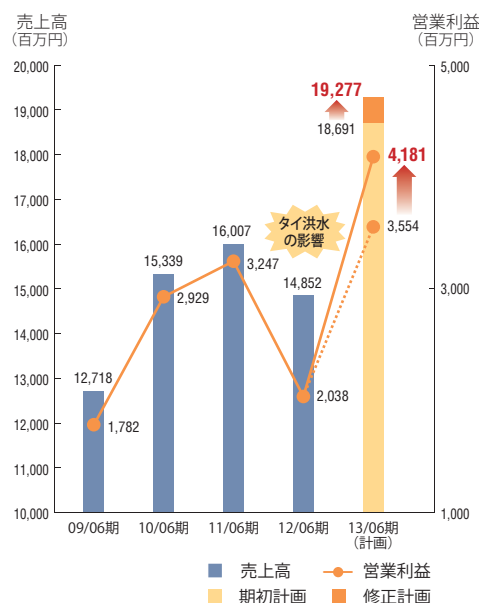
これらの戦略に則り、主力製品のPTCAガイドワイヤーは欧州地域で2011年7月より販売方法を地域別代理店制に変更し、国内では2012年1月より当社グループによる直接販売化を進めております。

2011年に発生したタイ洪水の影響によって一時的な減産を強いられましたが、これら重要な戦略の推進には影響がなく、足元におきましても市場シェアは拡大傾向にあります。タイ洪水による教訓として、生産体制の分散化を図るため、ベトナムのハノイ工場を増設し、部材加工・カテーテル類の生産を行う予定です。

また、樹脂加工技術を中心とした研究開発を強化する目的で、当社の連結子会社朝日インテックジーマ株式会社が静岡県袋井市に新工場を建設中です。

当社グループは今後も引き続き、中期経営計画に基づく成長戦略を強固に進めていくことにより、企業価値の拡大を目指してまいります。

\*低侵襲治療／患者様の精神的・身体的ダメージを最小限に抑えるために、開胸・開腹手術をすることなく、太腿や手首から血管を通じて行う、傷口や痛みが少ない治療のことです。



ハノイ工場 (2012年8月着工 2013年7月完成予定)



ジーマ新工場 (2013年2月着工 同年7月完成予定)

# トヨフレックス株式会社の全株式を取得予定

当社グループは、中期経営計画「Next Stage 2016」の重点施策の一つである「グループマネジメントの最適化」の具体的施策として、2013年2月開催の取締役会において、トヨフレックス株式会社の全株式を取得し、子会社化することを決議しました。

同社は、主に産業機器分野を中心としたユニット設計品などの製造会社で、フィリピンのセブ島に主力工場としての生産拠点をもち、高い生産能力を有する企業です。販売市場として自動車市場、インテリア建材市場、さらには医療機器市場などへの部材供給も手がけています。

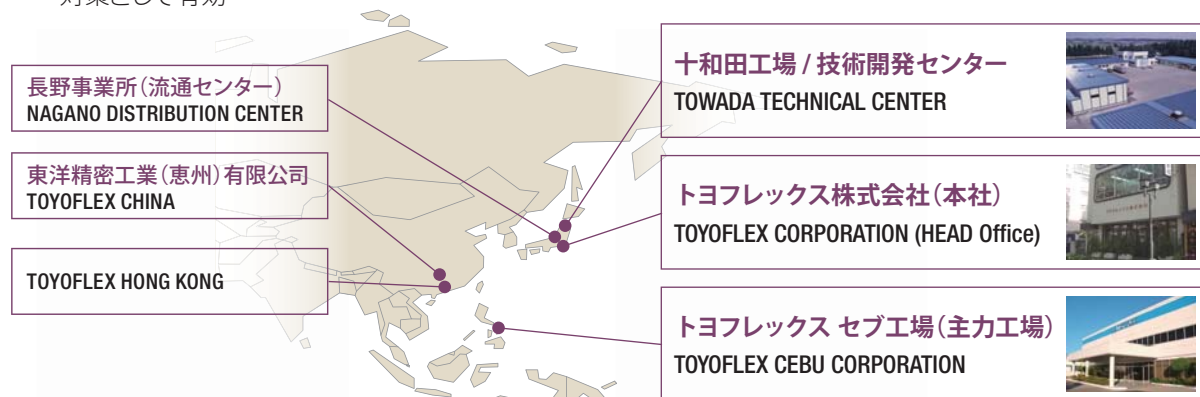
当社グループが同社を連結子会社化する目的は、以下の3つです。

## ① 製品販売におけるシナジー効果

- ▶ 当社グループと販売市場の重複が少なく、相互の補完性が高い
- ▶ ワイヤロープ技術や射出成型技術並びに小型金型プレス技術などをコアにしたユニット設計品を手がけており、相互の技術的なシナジー効果について期待

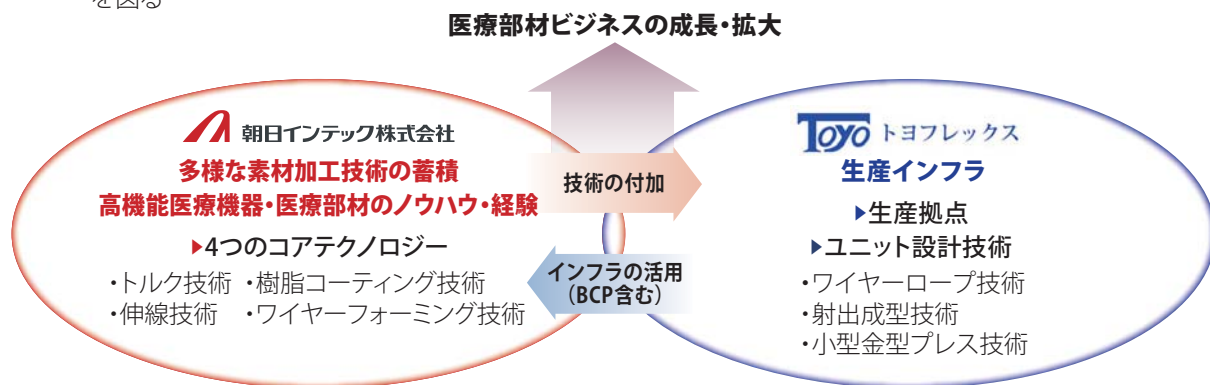
## ② 大規模災害に対するBCP上の対策

- ▶ 当社グループのデバイス事業の一翼を担うことにより、製造拠点がタイに集中する当社グループにとって、同社がセブ工場を有することで、大規模災害に対するBCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)上の対策として有効



## ③ 医療部材ビジネスの成長・拡大

- ▶ 同社の生産インフラ(生産拠点や、ワイヤロープ技術などのユニット設計技術)の活用に加え、当社の素材加工技術や高性能医療機器・医療部材のノウハウ・経験を付加することで、医療部材ビジネスの成長・拡大を図る



### トヨフレックス株式会社の概要

所在地	東京都府中市
事業内容	ユニット設計品、射出成型品、医療部材、ワイヤロープなどの製造・販売
資本金	200百万円
設立	1973年4月4日

### 取得の状況

取得株式数	201,654株(議決権所有割合100.0%)
取得価額*	同社の普通株式 500百万円
	アドバイザー費用等(概算額) 12百万円
	合計(概算額) 512百万円
取得期間	2013年7月~9月(予定)

\*取得価額については、公正性・妥当性を確保するため、第三者算定機関による株式価値の算定結果(時価純資産方式、ディスカウント・キャッシュフロー方式および類似会社比準方式)を勘案し、株式取得の相手先と協議を重ね、最終的には当社取締役会の決議を経た上で、算定結果の範囲内にて決定しています。



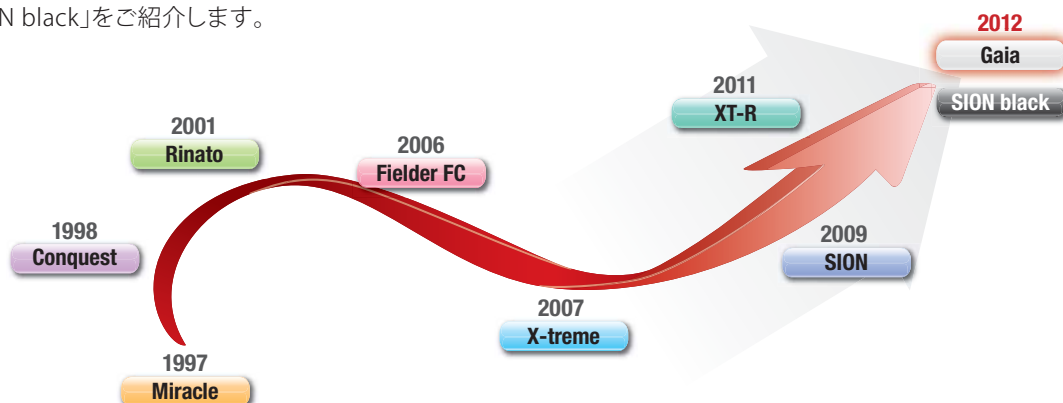
## 技術・製品紹介

### 当社PTCAガイドワイヤーの15年の軌跡

当社はこれまで、循環器系の領域の主力製品であるPTCAガイドワイヤー\*について、治療難易度の高い慢性完全閉塞(CTO)\*を治療できる製品に強みを発揮してまいりました。

今後は難易度の高い治療領域に加え、症例数の多い一般的な通常病変の治療に使用する製品の強化にも努め、PTCA治療の裾野を拡大することで、ガイドワイヤーの分野でのナンバーワンポジションを盤石化するため、新製品の開発を日々進めております。

今号では、PTCAガイドワイヤーのうち、当第2四半期連結累計期間に販売を開始した「ASAHI Gaia」「ASAHI SION black」をご紹介します。



\*PTCAガイドワイヤー／狭心症や心筋梗塞の治療法であるPTCA(経皮的冠動脈形成術)で使用する治療製品です。

\*慢性完全閉塞(CTO:Chronic Total Occlusion)／長期間完全に閉塞した状態の病変のこと。従来は、このような病変は外科手術(バイパス手術)の領域でしたが、当社がCTOにも使用可能なPTCAガイドワイヤーの開発に成功したことから、現在では、国内においてはPTCA治療(循環器系における低侵襲治療)が主流となっています。

#### ▶「ASAHI Gaia」

「ASAHI Gaia」は、CTO治療成績をさらに向上させるために開発されたPTCAガイドワイヤーです。従来は閉塞病変内に沈着して硬くなったコレステロールなどに対して、先端の硬いPTCAガイドワイヤーで回転や押すことによる掘削操作によって、進行させていました。このやり方は、血管への損傷リスクが高く、また直進性が高いので、硬いコレステロールなどを避けるための進路を変えることが困難でした。一方、「ASAHI Gaia」は、先端が柔軟なため病変内でも方向転換がしやすく、硬いコレステロールなどを避けるように操作することが可能で、ドクターのイメージするPTCAガイドワイヤーの走行ラインに沿って導くことができるため、手技が格段にしやすくなりました。「ASAHI Gaia」は、2012年7月より発売され、多くのドクターから高い評価を頂いております。

ASAHI  
Gaia



#### ▶「ASAHI SION black」

「ASAHI SION black」は、高い滑り性を保持するポリマージャケットと先端柔軟性のあるComposite Core\*が融合してできたPTCAガイドワイヤーで、従来のSIONシリーズの後継・進化版として2012年11月より販売されました。

「ASAHI SION black」は、従来のポリマージャケットワイヤーよりもさらに先端部分を柔らかくし、安全性と血管追従性が高まりました。また、細かい枝の選択や側枝への進入がしやすく、シーンに合わせた微妙なシェイピングカーブの調整が可能になるなど、操作性が一段と向上しました。

ASAHI  
SION black



\*Composite Core／ガイドワイヤー先端内部にもう一つのコイルを内蔵することで、イメージ通りのスムーズな操作がしやすくなります。



#### 「中日新聞社賞」受賞

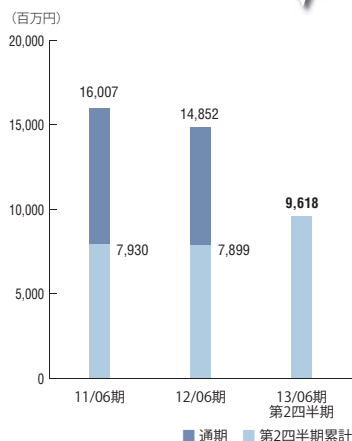
中日新聞社主催の「第26回中日産業技術賞」において、貫通カテーテル「ASAHI Corsair(コルセア)」が中日新聞社賞を受賞しました。「ASAHI Corsair」の登場で、これまでのカテーテル治療では困難であった虚血性心疾患治療の適用範囲が広がり、カテーテル治療の成功率も向上しました。その先進性や市場性、社会への貢献などが認められ、今回の受賞となりました。

# 連結財務データ

## 売上高

売上高 前年同期比**21.8%増**

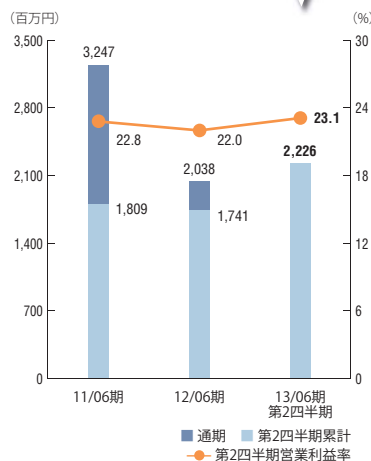
産業機器分野が減少したものの、医療機器分野の自社ブランド製品の末端需要が全地域で堅調だったことや、PTCAガイドワイヤーの国内直販化に伴う収益改善により増加しました。



## 営業利益／営業利益率

営業利益 同**27.8%増**

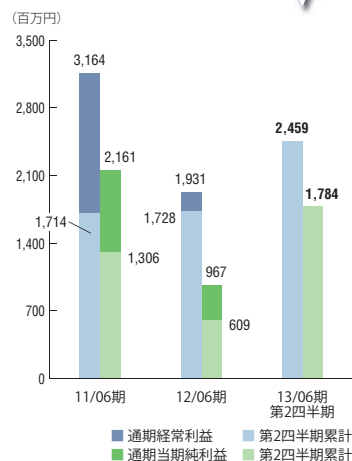
営業関係費用の増加により販売費及び一般管理費が増加したものの、好調な売上に比例して増加しました。



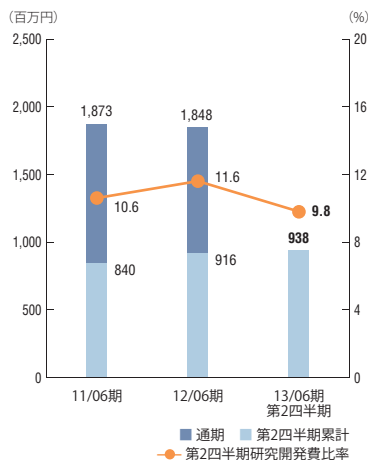
## 経常利益／四半期(当期)純利益

経常利益 同**42.3%増** 四半期純利益 同**192.7%増**

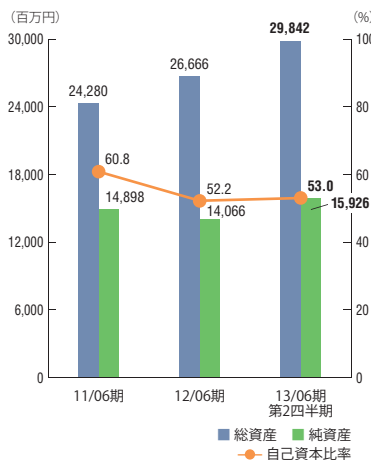
経常利益は足元の円安傾向に伴う為替差益の増加により、四半期純利益は災害損失がなくなったことなどにより、それぞれ増加しました。



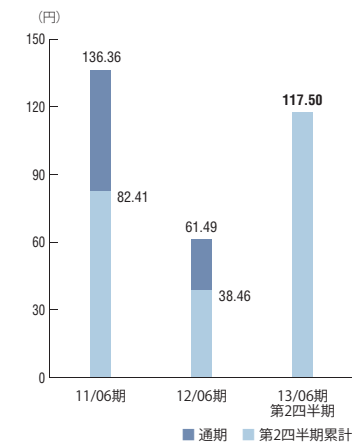
## 研究開発費／研究開発費比率



## 総資産／純資産／自己資本比率

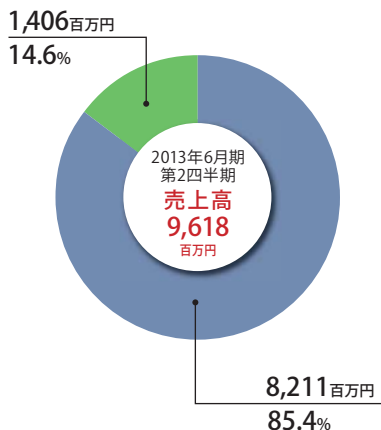


## 1株当たり四半期(当期)純利益



## セグメント別売上高

▶%は売上高構成比



### ●メディカル事業

国内市場においては、主力製品PTCAガイドワイヤーの直接販売化に伴う収益改善、海外市場においては、欧州地域、米国地域、中国を含むアジア地域など全地域において好調に推移しました。特に、欧州市場では地域別代理店制の変更により、主力製品の市場シェアが急速に拡大し、また中国市場でも現地販売会社の子会社化に伴う営業強化により、高い伸び率を示しました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比25.5%増の8,211百万円となりました。

### ●デバイス事業

医療部材は、特に海外市場において、耳鼻咽喉科治療用製品や、循環器検査用機器に使用される医療部材が増加するなどし、売上高は増加しました。

産業部材は、レジャー市場への部材供給などが国内海外ともに増加したものの、国内の自動車市場や家電市場への部材供給や、海外のOA機器市場の取引が減少するなどし、売上高は減少しました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比3.6%増の1,406百万円となりました。

# 会社概要・株式情報・株主メモ

## 会社概要 (2012年12月31日現在)

商号	朝日インテック株式会社 (ASAHI INTECC CO., LTD.)
設立	1976(昭和51)年7月8日
資本金	42億344万円
従業員数	連結 3,346名 / 単体 376名
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第二部) 名古屋証券取引所(市場第二部)
主な事業内容	①循環器系疾患の治療および診断分野における低侵襲治療製品(治療用カテーテルシステム、検査用カテーテルシステム)の開発・製造・販売 ②消化器分野、循環器分野、透析分野、放射線分野における低侵襲治療製品および医療部材の開発・製造・販売およびOEM供給 ③産業機器用極細ステンレスワイヤーロープの開発・製造・販売

## 役員 (2012年12月31日現在)

代表取締役会長	宮田 尚彦
代表取締役社長	宮田 昌彦
専務取締役	竹内 謙次
常務取締役	福井 芳彦
常務取締役	宮田 憲次
取締役	湯川 一平
取締役	加藤 忠和
常勤監査役	渡辺 行祥
監査役	佐藤 昌巳
監査役	大林 敏治

(注) 監査役佐藤昌巳、大林敏治は、社外監査役であります。

## 事業所

### 国内事業所

営業拠点	東京	東京都新宿区
	名古屋	愛知県瀬戸市
	大阪	大阪府和泉市
メディカル事業	瀬戸工場	愛知県瀬戸市
大阪R&Dセンター		大阪府和泉市

### 海外事業所

香港支店	中国 香港
EU支店	オランダ アムステルダム
シンガポール支店	シンガポール ビシャン地区
北京駐在所	中国 北京市朝陽区

### 子会社

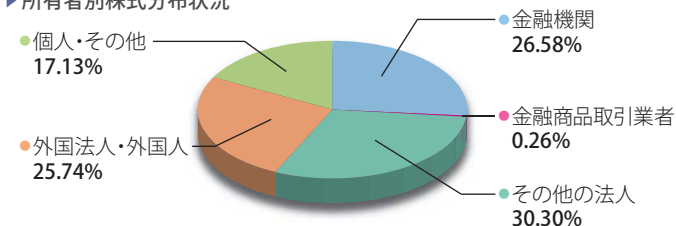
ASAHI INTECC THAILAND CO., LTD.	タイ パトゥムタニ県
ASAHI INTECC HANOI CO., LTD.	ベトナム ハノイ市
ASAHI INTECC USA, INC.	アメリカ合衆国 カリフォルニア州
朝日英達科貿(北京)有限公司	中国 北京市
フィルメック株式会社	愛知県名古屋市
朝日インテックJセールス株式会社	東京都新宿区
朝日インテックジーマ株式会社	静岡県袋井市

## 株式情報 (2012年12月31日現在)

発行可能株式総数	50,000,000株	
発行済株式の総数	15,884,900株(自己株式765,248株を含む)	
株主数	1,874名	
大株主		
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
アイシーエスピー(有)	1,500,000	9.92
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,114,500	7.37
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	865,700	5.72
MMK(株)	773,000	5.11
(株)ハイレックスコーポレーション	600,000	3.96
ノーザントラストカンパニー		
エイブイエフシーリノーザントラスト	472,290	3.12
ガンジー アイリッシュクラリアンツ		
宮田昌彦	469,500	3.10
宮田憲次	458,300	3.03
JFK(株)	449,000	2.97
(株)ホギメディカル	425,800	2.81

(注) 持株比率は自己株式(765,248株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月
期末配当金受領株主確定日	6月30日
中間配当金受領株主確定日	12月31日
公告方法	当社ホームページ <a href="http://www.asahi-intecc.co.jp/">http://www.asahi-intecc.co.jp/</a> に掲載します。 但し、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-232-711(通話料無料)

### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。